

公開保育報告

<事務局>

平成26年度  
プロジェクト型保育推進事業  
～保育の質の向上研修～ 報告会

**公開保育報告**

平成27年2月21日(土)  
西駅交流センター



公開保育実施園・開催日時

6月19日(木) 中保育所  
8月4日(月) 保幼小連携  
(中保育所・シオン幼稚園)  
9月30日(火) 東山保育園  
10月23日(木) ルンビニ保育園  
11月13日(木) 東保育所



中保育所  
～色水あそび～

紫タマネギや給食室からもらった野菜の皮の煮出し、氷、レモン、炭酸、重曹等を使っての色水遊び




ねらいに合わせた環境を

◎遊びの中で、気づき・発見が見られた  
◎素材の工夫、保育のねらいは感じられた

⇒環境(空間の構成)が重要  
**ねらいに合わせた環境構成(量、位置等)が必要**



中保育所  
～畑プロジェクト～

「じゃがいもの収穫時期を聞きたい」との子どもたちの声から、農家の方との交流




学びを定着させるかかわり

◎子どもの声から保育を展開している  
＝子ども主体

◎子どもの中の学びを定着させていく保育士の声かけと農家の方と子どもの相互作用を促す保育士の関わりがあった



中保育所  
～感覚遊び～

様々な素材にふれる遊び...どろんこ、水遊び  
片栗粉ねんど遊び  
2歳児が夢中になって遊んでいた




具体的な子どもや遊びのイメージを

◎伸ばすようになでる、友達の様子を見ている、指の間から垂らす...等、夢中になって遊ぶ姿が見られた

⇒楽しむとはどういう姿か? **具体的なイメージを持つ**ことで、ねらいに合わせたかかわりが持てる



### 成果・課題

◎保育士の関わり：問いかけの言葉、気付かせる言葉、提案の言葉等...主体性を尊重した関わり  
⇒子ども同士の相互作用を増やす

◎指導計画  
⇒ねらいは、年齢の発達に合っているか？遊びは、子どもの姿から出てきたものなのか？  
⇒ねらいは達成できていたか？達成できた時の具体的な子どもの姿、イメージ（評価の観点）を持つ必要がある  
⇒環境構成、教材の研究が必要

### 保幼小連携合同研修会 ～公開保育～

中保育所・シオン幼稚園で実施  
◎小学校の先生の保育園・幼稚園の様子を見たいという声から…

◎木下教授より『幼児教育とは何か？保育を見るときポイント』を解説

◎夢中になって遊びこむ力が学びにつながる

### 保幼小連携合同研修会 ～グループワーク～



小学校区ごとに幼保小の先生が6～7人のグループになり連携活動のプラン作り

### 東山保育園 ～スタンプあそび～

2歳児が、いろいろな形・色のスタンプで1組（6～7人）のグループごとに



### パラレルトーク 行動・活動・体験...の言語化

◎「混ぜた」「見て」の2歳児らしい言葉...  
◎保育士の誘い言葉、提案の言葉が多かった

⇒パラレルトーク：子どもの行動、活動、体験、感情を保育士が言語化することで、言葉や知識の定着を図る方法

### 東山保育園 ～砂あそび～

3歳児が砂場で砂遊び



### 遊びと遊びをつなげる

◎イメージした言葉、肯定語が多く聞かれた  
◎水・砂・どろ...多面性がある遊び  
ごっこ遊びは想像力が育つ遊び  
◎環境：高さの違う机...ベンチ

⇒遊びと遊びをつなげる環境と保育士のかかわりを!

### 東山保育園 ～製作あそび～

4、5歳児、おみせやさんごっこで使う商品づくり



### 子ども同士の相互作用・協同性を!

◎出来あがった作品を飾るコーナーがよかった  
⇒友達が相談し合う、伝え合う、話す機会をつくる

⇒自由な発想でつくれる工夫

⇒子ども同士の相互作用、協同性が生まれるような環境と保育士のかかわり

### 成果・課題

◎保育士の応答的なかわり、受け入れる言葉、誘い語が増えた  
⇒子ども同士がモデルとなるためにも年齢や場所、クラスの枠を超えて交流するとよい（1～2歳児、3～5歳児）  
⇒子ども同士をつなげていくための環境構成、素材の工夫を!  
⇒どう子どもが興味や関心をもったのか？ どう育ち、どう学んだのか？その具体的な姿や根拠となる姿、言葉を見とることが大事

ルンビニ保育園  
～竹飯～

4、5歳児：子ども自身が選んだ材料を自分たちで書いたレシピを見ながら、クッキング



体験の中の気づき、発見、学びを見とる

◎園庭で栽培しているシタケ...良い環境  
子どもが活動のイメージをしっかりと持っている

◎保育士の指示が減り、誘い語が増えた

⇒作業が目的ではなく、体験の中で何を発見し、何に気づいたかを見つけ、発展させていく

ルンビニ保育園  
～サツマイモほり～

園庭で育てたサツマイモを掘る2歳児  
水で洗っている様子を見に来た1歳児  
始めは見ていただけだったが...



年齢の発達を意識する

タライの中でイモを洗う、タライに入る...  
2歳児らしい自己中心的な発達の姿

⇒大きさ比べ...年齢の発達を考える

⇒汚れに抵抗のある子ども達...直接体験が大事

ルンビニ保育園  
～転がし遊び～

1歳児が、半分に切った竹筒に色々な素材のものを転がして遊んでいた(松ぼっくり、どんぐり、プラスチック等)



環境構成を意識する

◎転がったところで色々な音が楽しめる

⇒竹と竹の間が狭かった...環境構成を考える

⇒素材、サイズ、音、形、の違いを体で感じる経験(五感を使った経験)をたくさんすることが大切(体験が言語の獲得につながる)

⇒視覚を取り入れることで五感を使った遊びに(トンネルを作って、隠れて出てくるのを楽しむ等)

成果・課題

◎保育士の指示・命令語が減り、子ども同士の会話がよく聞かれた

⇒体験や経験そのものがねらいや目的ではなく、その体験を通して何に気づき、何を学んだかが大事

⇒なぜ、待つのかを提示する、自明性がないと集中しない習慣を身につけてしまう

東保育所  
～新聞あそび～

3歳児：作ることで終わってしまっていた新聞あそび  
作った物で遊んでほしいという保育士の思いから子ども達が興味を持っているレンジャーごっこに着目し、担任がモデルになることで遊びを展開



自分らしさ、創意工夫をほめる

◎子どものイメージにつながるよいモデルになっていた

⇒反面、パターン化され、イメージが広がりにくくなることも...意識して

※保育士の模倣から自分らしさ、創意工夫しているところを見つけてほめる

友達との関係性を意識してほめる

◎ほめる時

⇒友達との関係性をつなぐことを意識する  
その子だけほめるのではなく、周りの子どもも巻き込んでほめる



### 気づくように促すこと

◎トラブルや誤解を解く時  
 ⇒気持ちに寄り添う  
 叱ったり問い詰めたりせず、泣いている子に泣かせてしまった子の横で丁寧に気持ちを聞く

⇒気づくように促すことが大事  
 他の子から少し離れた場所で空間を作り、話を丁寧に聞く  
当事者が、当事者意識を持てるように

### 東保育所 ～振り返り～

クラスごとに集まり、今日の遊びのトピックスを元に子ども達が発言する、友達の思いを聞く振り返り場面



### 会話のキャッチボールを!

◎話したい子が多いのは、友達との関係性や伝えたい気持ちが育っている表れ

⇒子どもの言葉を受け止めた後、わかるように言い換えるだけでなく、他者を巻き込んで会話のキャッチボールをする

⇒保育士が言い過ぎると聞かない子が育つ  
 ⇒主語は誰なのか?を考えて話す

### 成果・課題

◎環境の工夫がなされ、遊びをつなげようとしていた  
 ⇒環境：人・もの  
 先生同士の共通認識が大事、支援の先生との連携、その環境や人がどう機能するか、チームで保育する

⇒子ども主体：起点は子どもであっても、その中から保育士の教育的意図との関係で選択

⇒モデル：遊びが展開する面とみんな同じになってしまう面、両面あることを意識する  
 モデルと違う発想や個々の創意工夫をほめる、気づかせることで新たな遊びへ広げる

※保育の方向性を決めすぎではいけない  
 ⇒活動がねらいや目的になりがち  
 楽しみながら何が育つか?何を学ぶのかを考えてねらいを設定する

### まとめ

<共通の課題>  
 子どもと子どもをつなげる  
 遊びと遊びをつなげる

↓

そのための・・・  
**環境・保育士のかかわりを**

<キーワード>  
**子ども主体の保育**  
 ※子どもの興味・関心を起点に・・・

## <公開園：ルンビニ保育園>



公開保育報告  
ルンビニ保育園 山口 佳代

ルンビニ保育園では、前年度の公開保育にて保育士主導型の保育の変化というご指導を頂き、職員間で何度も何度も話し合い子どもの声を聞き、興味・関心にただただ目を向け、子どもの主体的な活動を目指し進めてきた形が今年度の10月に行った公開保育の姿でした。

しかし、それ以後も子ども主体的な保育を進める戸惑い、主体的自体どうすることなのか分からない。どこまで子どもの思いを認めるのか、全てを受け入れる難しさ。子どもにかける声かけ、例えば、お片付けをする声かけひとつにしてもどの様に声かけするのか、声かけをすることなく子ども自らが動くのを待つのがよいのか。今までの行ってきた全てに疑問を持ち始める職員も出てきました。これらのことが、私たち保育士の力量が問われてきているのではないかと思います、その重圧に負けてしまいそうになっていました。

今までの一斉保育中心活動、手順に沿った制作活動の大変革による職員の不安、悩み、焦りが見られるようになりました。

その中、4歳児の節分の豆入れ作りの事例が園全体で振り返る大きな一例となりました。

鬼の顔に見立てたものを作る子どもが多い中、空き箱に画用紙を貼ったのみで完成として持ってくる子どもがいました。他の子のように「目や口を付けないの？」と聞くと本人からは「これでいい」と返答があり、その子の完成作品となりました。豆まき当日に、家庭に持って帰った後、保護者から「制作前日に鬼の顔の豆入れを作ると言っていたが鬼の形になっていなかった。時間がなかったのか。家庭では形になるものが作れるのに、今回なぜ作れなかったのか知りたい。」との問いがありました。

今までの制作場面では、同じ材料で手順を見て作り同じようなものが完成していましたが、様々な材料の中から自由に選び作れる環境に変えたことによって、完成作品としてみると個々の違いが明確になってきました。

- ・今までだったら、保育士の思いで「〇〇したら」と声をかけていたと思う。でも、この事例は子どもの思いを尊重したのではないか。
- ・子どもの思いを大切にしつつ、個の発達段階を踏まえたアドバイスや声かけも配慮すべきなのではないか。
- ・帰園時、迎えの保護者に本児の様子を伝えたり、クラスの一日の遊びの様子を写真やコメント入りの「おしらせ」の張り出しだけでは、伝えきれないものがあつたと反省している。
- ・園として、保育の変化を保護者に上手く伝えられていなかった。
- ・ドキュメンテーションでの伝えは、得たもの、学んだこと、向上していることなどプラス思考での捉えが多く、中にはその到達途中にいる子もあり、なかなか個別の様子が伝わりきれていない部分もある。
- ・今回のように持ち帰る作品には、子の思いや工夫したところ、こだわった部分などをカードなどで添えてあげると良い。

など、様々な職員の思いを聞く中、活動の結果を重視されてきたことが浮き彫りになった事例だと思いつつ同時に、子どもの様子をしっかりと見つめ、その時の思いを受け止め援助する。その姿を保護者に伝える。それを大切にしていこうと話していました。

保育士の思いを動かした2つ目の事例として、

雪が降った2月9日、窓の外を眺めていた2歳児、「ゆきあそびしたい。」のつぶやきから、「ゆきあそびしよう！」と保育変更へ。その日は、体調の悪い子が多く、室内で遊べるように、洗面器に雪を入れました。冷たい感触、手の中で握りしめ溶けてなくなってしまう驚きを実際に味わい、その数日後、お外でのゆきあそびに発展しました。今までなら、今日の保育を重視していたかもしれませんが、子どもに寄り添う事を大切に、子どもの気持ちに伝えてあげたい保育士の思い。こんな何気ない一場面の姿が保育が変わってきた一歩なのでしょう。

子どもたちの中から、「先生、〇〇やってみてみたい」「〇〇だと思ふ」などの声が増え、それが次への行動にも繋がってきています。自分たちの思いが実現され、形となり、経験・体験を経て、達成感へと繋がっている。

それが自信へ、そして次へのやる気へと繋がってきていると思います。

主体的にという言葉にとらわれ、保育に自信を無くしてしまっていた職員でしたが、もう一度保育の原点に戻ってみよう、まず何を行うべきかを考えた時、子どもの中に入り、子どもと同じものの見方をしてみよう、そうすることによって、環境構成であったり、保育士の援助のあり方もかわってくるのではないのでしょうか。

命を守り、心を守り、育ちを支える、これを実現するために。

子どもの中に入り、子どもの姿をじっくり見て、子どもの声を聞きとる。

その中で子どもが何に興味を示し、何を体験したいと思っているかを知ることをもう一度頭に入れ保育していこう。ひとりではなくみんなで保育をしていこう。幼児期の成長と発達を担う一保育士として学び成長したいと思っています。

## <公開園：東保育所>



公開保育報告  
東保育所 早崎 浩美

今回の公開保育では、多くのことを学ぶことができ、また、自分達の保育をふりかえる良い機会となりました。

子ども主体の保育を考える中で、行事にどう取り組んでいくのか、今回「劇あそび」について、職員間で話し合いました。

これまでの保育士主導の劇あそびでなく、子どもの興味や関心をもとに、日々のあそびから展開していき、見栄えや結果ではなく、あそびの延長としてとらえていくことを職員間で共通認識し、取り組みました。

各年齢ごとに発達をおさえ、子ども達からの発信をもとに、劇あそびへと展開していき、衣装や道具、セリフ、ストーリーなどを子ども達と相談したり、一緒に考え合いながら進めていきました。

ここで、2つの事例をご紹介します。

### 【5歳児Yちゃんの事例】

Yちゃんは配慮を必要とする子どもで

保育所では言葉を発することはほとんどありません。

友達とコミュニケーションをとることも難しく、これまで運動会や、劇遊びなど、行事への参加も難しい子どもでした。

子ども達一人ひとりの主体性を大切にしながら進めてきた劇あそびですが、保育士が知らず知らずのうちにYちゃんのできることは何だろう・・・参加できる役柄は何かを、決めようとしていました。

しかし、Yちゃんは自分で「レストランで料理を作るリス」という役を選び、友達が役になりきってあそぶ姿をそばで楽しそうに見ているのです。ただ見ているだけのYちゃんを見て、保育士の中にこれでもいいのだろうか・・・との葛藤が生まれたのですが、これもこの子の参加の仕方だと、その様子を見守ることにしました。

そんなYちゃんの姿をまわりの友だちも受け入れ、たとえ言葉を発しなくても「私達はこうするけど、Yちゃんはどう？」と同じグループの一員として話し合いを進める姿がありました。劇あそびのストーリーもできはじめ、いつものように友達が料理を作る様子をニコニコしながら見ていたYちゃんに、同じグループの子達が「できた料理を運んで」と手渡しました。するとYちゃんは普段見せたことのない笑顔でこの役割を果たしてくれたのです。

普段からYちゃんがままごとあそびを好きなことを知っていた子ども達だから、この役をやって欲しいと思ったのだと感じたし、やらされているのでなく、Yちゃん自らがやりたいと思えたことが、このような姿につながったのだと思います。

保育士が、その子とまわりの子ども達との関係性を大切にしたり、活動が目的ではないということを意識したことが、このような子ども達の姿につながったのでは・・・とあらためて保育士の関わりの大切さ、子ども主体の保育の大切さを感じました。

次に、「ふりかえり」についての事例をご紹介します。

公開保育の頃は、子ども達がただ、自分の言いたいことをそれぞれに言い合うだけの場になってしまっており、保育士自身も、どの話題を取り上げるべきかの視点が定まらず、保育士の思いを言い過ぎたり、説明し過ぎてしまっていました。

「自分の事は言いたい、人の話は聞こうとしない」という子ども達の姿もあり、遊びの中で子ども達の発見や工夫に共感し、子ども同士をつなぐ、あそびとあそびをつなぐということを意識していきました。ふりかえりの中で発見や気づきの共有が見られた場面を、保育士が意図して取り上げる事で、子ども達からも、「自分が発見

したことをぜひみんなに知らせたい」「こうやったらうまくいったことをみんなに教えてあげたい」という思いが出てきました。

年長クラスの劇あそびの話合いの中では、「○○ちゃんの～なところを工夫してすごいと思った」「○○くんは～な部分をがんばっていたよ」と友達の良さに気づき、褒めたり認めたりする発言も少しずつ増えてきました。

これまで、自分の思いばかりになりがちだった子ども達が友達の意見に対して、「じゃあ、こんな風にしてみたら？」「いい方法がないか考えてみよう」などと、共通のイメージや目的の中で、工夫したり、考えたりする姿も見られるようになりました。

劇あそびを進める中では、子ども達の思いを拾い上げながらも、保育士の意図をそこにどう入れていくのかの難しさを感じ、担任間で話し合いを繰り返しながら進めていきました。

保育士が方向性を決め過ぎてしまわず、子ども達の発想を認めていく中で、子ども達一人ひとりが「私はこうしたい」「こんなことを考えたよ」と劇あそびに主体的に関わっていく姿が見られるようになりました。こうあるべきという保育士の思い込みをなくし、活動自体が目的やねらいになつてしまわないよう意識していくことで、劇あそびが豊かになっていきました。

このような様子を保護者にも知ってほしいとの思いで、劇遊びが深まっていく過程を日々のドキュメンテーションや、おたよりの中で伝えていきました。また、当日には子ども達からも「こんな所を工夫したよ」「友だちと一緒に考えたよ」という部分を見どころとして発表しました。

まだまだ、保護者への発信も不十分で、全員の方にドキュメンテーションを読んでもらえているわけではないのが現実です。

これまでの行事のアンケートにも「見栄え」や「出来栄」にこだわる声も多くなりました。

しかし、今回の劇あそびでは、保育士自身が意識を変え子ども達と関わり、保護者へ発信していったことで、ほんの少しずつですが、変化がみられてきました。

その中の保護者の声をご紹介します。

・見所を子ども達が言う姿から、いろいろな意見を出し合い、話し合いをした結果、そのやり方でやってみようと思いつきながら決めたのだからと想像しながら見ることができました。

・「やらされている」のではなく「自分達で考え、こうしようと決めた」ことなので、皆うれしそうに堂々としていました。

このような意見は、ごく一部なのですが、保護者の方に少しでも理解して頂けたことは成果であったと思います。今後、このような保護者を少しでも多く増やしていくために、様々な形で発信していく工夫をしてきたいと考えています。

今回、劇あそびを見直す中で保育士の意識は少しずつ変わってきたのですが、日常の保育の中ではまだまだ課題も感じています。「主体性」を大切にすることが、子どもに何も言ってはいけない事だととらえてしまったり、「子どもの声を聞く」ということが、全て子どもの言う通りにする事と思いがちな場面もまだまだあります。子どもが自分で考えて行動できるよう、働きかけたり、言葉がけをしていくことの難しさを感じ、子ども主体をどうとらえていくのか・・・日々悩みながら保育をしています。

今後も、職員間で課題を共有し、共通理解のもと、保育をすすめていきたいと考えています。

## <講師指導>

### ★ 公開園の発表について

- ・率直に試行錯誤のプロセスを伝えて下さった。プロジェクト保育に取り組んでいるが、決して今までの保育を否定するものでない。
- ・プロジェクトメソッドとは、設定保育と自由保育の中庸をいくものである。保育を一度に変えるのは難しく、設定保育の中でも、選択肢や多様性が、どれだけ入るかが大切。目の前の子どもの興味を見きわめ、育ちを考え、させたい経験を決める。答えの評価者は、子どもである。完成度よりも、こだわりを視点とするのが良い。
- ・ドキュメンテーションを書くときも、育った力など肯定的な事ばかりでなく、プロセスとして、悩んだ、試行錯誤した様子を伝えたと良い。
- ・行事のあり方については、どこの園でも、悩んでいる。経験や活動をベースにするのではなく、もう一歩先、「これを通して何を育てたい」をスタッフ間で話し合ってほしい。発表会で、より良く見られることより、良く見せたいために、何を努力したかが大切である。